



二輪草だより

2020年1月号
発行:二輪草センター



センターの活動予定

◆2月下旬

二輪草だより2月号発行

第34回 二輪草セミナー終了報告

看護職キャリア支援職場適応支援担当 菊地美登里

11月26日(火)輝くナースシリーズ8回目のセミナーを開催しました。テーマは『期待されるスペシャリスト～未来の自分を描こう～』としランチョン形式で行い、参加者は44人(看護師6人、看護教員4人、看護学生32人、その他2人)でした。講師は、DMAT(災害医療派遣チーム)・フライトナースとして活躍する救命救急センター看護師の岡本真紀代さん、集中ケア認定看護師・ICU副看護師長、そして看護師特定行為研修修了者(特定看護師)である上北真理さんをお願いしました。



ここ数年、毎年のように地震や豪雨災害が発生し、DMATやドクターヘリなど災害医療の重要性と災害看護への期待が高まっています。また、特定看護師については、まだ新しい分野でありH27年に研修制度が法制化され、医師の包括的な指示(手順書)のもと一定の医療行為が実施できる特定看護師が誕生しました。今後、ますます臨床や在宅などの領域での役割拡大が期待されています。

岡本さんからは、DMAT・フライトナースの活動の紹介があり、ヘリコプターの要請出勤から現場到着までに、限られた情報をもとにあらゆることを予測しながらの業務であることなど、緊迫した状況が伝わってきました。また、DMAT・フライトナースを目指すために必要な事についてもお話しいただき、救命できない現場に直面することもあり、自分自身の心のコントロール、モチベーションの維持が大切と話されました。

上北さんからは、最初に特定行為研修の概要についての説明があり、特定看護師を目指した動機と迷いについて話されました。迷いとしては「ミニドクター化することへの懸念」があったこと、しかし、「看護を基盤に、さらに医学的知識・技術を強化する」という目的を明確に持ち研修受講を決断したことが話されました。現在、21の特定行為区分のうち呼吸・循環に関する6区分を実施しているとのことでした。



また、実践で大切にしていることとして「自分の限界や実践力を見極めできない判断をできるようにすること」と話されたことが印象的でした。アンケートの結果からも、参加いただいたみなさんには、新しい分野でキャリアを切り開き活躍している看護師の存在とその活動内容について、知っていただく機会になったのではないかと思います。

病児一時預かり室、バックアップナース、病児・病後児保育室、カウンセリング相談 【12月20日～1月19日までの利用状況】

病児一時預かり室	依頼回数	0回	利用回数	0回
バックアップナース	依頼回数	16回	稼働回数	14回
病児・病後児保育室	依頼回数	7回	利用回数	5回
カウンセリング相談			利用回数	3回

* 病児一時預り室、病児・病後児保育室は全職員・学生がご利用になれます

「医学生・研修医・女性医師の集い」終了報告

二輪草センター助教 菅野 恭子

令和元年11月6日に医学生・研修生・女性医師の集いが開催されました。今年度は「研修医生活ってどんなもの？」をテーマに4人の先生方にお話し頂きました。まずはじめは、市立旭川病院初期研修医の森かなえ先生で、将来法医学に進む予定とのことですが初期研修は手厚い指導がうけられ、コメディカルが優しい市立旭川病院を選択されました。どんなに良い選択肢でも後悔することがあるが、明らかにデメリットの多い選択肢でなければ何とかやっていけること、好きなものが意外とみつかるとお話しされました。ご自身は研修中、当直・救急外来が好きということに気づき将来的には救急科から法医学の道に進むつもりとのことでした。



次にお話し頂きました旭川医療センター呼吸器内科の森千恵先生は女性医師の役割と強みについてお話し頂きました。女性でありながら医師として働く障壁として、体力不足、出産、育児のための休暇などたくさんありますが、女性医師は患者中心コミュニケーションが強みであることを具体的にお話しされました。しかし女性医師がミスを起こすと他の女性医師の評価も下がることや、まだ『女医』というくくりでみられているという現実についても指摘されていました。自分を守り、自己実現にむけて気をつける点として遅刻をしない、挨拶をきちんとするなどの基本的な社会的ルールを守ること、与えられた仕事を素早くこなし必ず『ハウレンソウ』を行う点についてアドバイスされました。

3番目は旭川厚生病院小児科の山木ゆかり先生で、仕事と子育てをどのように両立されているかについてお話しして下さいました。お子さんが1歳になるまでは育児時短制度を利用し1歳からフルタイムで勤務、月2回の日直をされていました。1歳4ヶ月になってからは月2回の当直もされているとのことでした。仕事の時間がもう少しほしいと思うことがあるそうですが、上級医・後輩の先生方の協力に支えられ日々充実しているそうです。1年間の育児休暇はとても貴重な時間で、日々の診療につながっているそうです。仕事も子育ても100%の状態でごこなすことは難しいですが限界を知ること、周囲に感謝すること、働き続けること、子供との時間を大切にしていることをお話しされていました。



4番目は旭川赤十字病院形成外科の堀越久子先生で、学位を取得後ご主人の留学に伴い2年間のアメリカ生活をおくられ帰国後現職に就かれているとのことでした。日本の女性医師の割合は20%と先進国で世界最下位ですが、アメリカでは2017年の医学部入学者は女性が男性を上回ったそうです。アメリカの女性医師事情としてレジデント中に一人目を出産し産後12週でキャリアのため復帰し、ベビーシッターやデイケアや保育園を利用しているそうです。女性医師が働きやすい環境は男性も働きやすい環境であること、次世代の後輩にバトンをつなぐこと、子育ては未来を担う人を育てること、自分が置かれた所で精一杯やること、感謝と次につなげていく気持ちをもって地道に前に進むことが未来につながるとお話しされました。今回は医師14名、学生が34名でしたが、より多くの学生に聞いて頂きたい内容でした。早い時期にロールモデルの体験談を聞くことは今後の自分自身の働き方や生き方の参考になると思いますのでふるってご参加下さい。最後になりましたが、主催頂きました旭川市医師会および北海道医師会にこの場を借りてお礼を申し上げます。またお忙しい中ご講演頂きました先生方にも深謝致します。

【お問い合わせ先】



旭川医科大学 二輪草センター(復職・子育て・介護支援センター)

〒078-8510 北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1-1

TEL 0166-69-3240(内線3240) サンニンヨレ FAX 0166-69-3249

開設時間8時30分～17時15分 E-mail: nirinsou@asahikawa-med.ac.jp

ホームページ <http://www.asahikawa-med.ac.jp/hospital/nirinsou/>